

雪害対策は万全に！！

令和4年12月22日
坂井農林総合事務所
JA 福井県坂井基幹支店

ハウス倒壊防止・雪害防止対策について再確認を！

今後、冬型の気圧配置が強くなるため、平年に比べ雪の日が多くなる見込みです。また、2月も平年並みの積雪が予想されています（新潟地方気象台発表）。

雪害対策マニュアル改訂版、簡易チラシ改訂版（チェックシート）が、下記アドレスに添付されておりますので、当資料と合わせてご活用ください。

[雪害対策マニュアルを改訂しました | 福井県ホームページ \(fukui.lg.jp\)](https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/021037/setugaibousi/setugaimanyuaru.html)

<https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/021037/setugaibousi/setugaimanyuaru.html>

1 ハウスビニールの除去（耐雪型ハウスを除く）

作付が終了したハウスは、できるだけ早めにハウスビニールを撤去し、積雪による倒壊を防ぐ。特に連棟ハウスは除雪しにくいので、必ず積雪前にビニール撤去を行うておく。

気象情報に注意しながら、場合によっては、早急に被覆資材を破り、屋根の雪を内部に流し込むなどの対応策をとる。

●被覆資材を除去してあるパイプハウスでも、パイプ交点等に積もった雪が着雪する場合もあるので、早めに人力で雪を落としておく。

ハウス肩部や腰部のパイプ等が積雪に埋没したままにしておくと、沈降圧によって変形、破損等の原因になるので、早めに掘り出しておく。

2 ハウスの補強

積雪だけでなく、突風による被害なども予想される。パイプハウスでは、丸太などの中柱を3～4m 程度の間隔で立ててハウスに固定しておく。また、支柱の下にはブロックなどを敷いて沈込みを防止する。

また、積雪荷重により肩部が広がると倒壊しやすくなるので、支柱と同等の間隔でワイヤー等を張って補強する。

強風に備え、防風ネットの補修や支柱を補強しておく。

3 融雪・除雪（安全確保を優先し、複数人で作業を行うこと）

ハウス周辺の“融雪溝”を点検・整備し、排水を確保し、融雪水のハウスへの浸水を防ぐ。

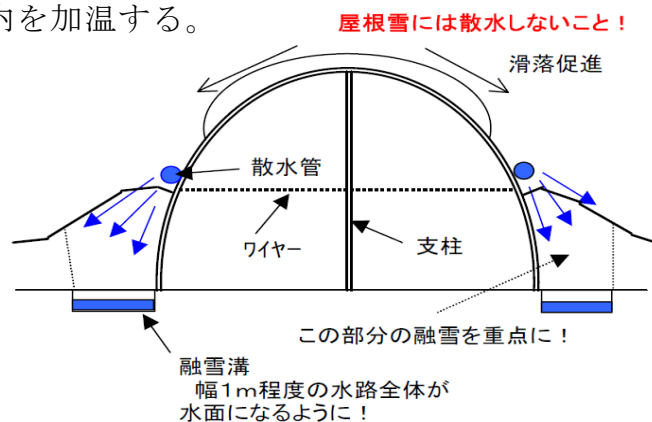
融雪装置や除雪機がある場合は、すぐに使えるよう、点検・整備しておく。また、除雪機を使用する場合に備えて、ハウス周囲を整理して作業通路を確保し、除雪作業をしやすい状態にしておく。

●耐候性ハウスであっても、一度に多量の積雪がある場合は、倒壊の危険があるので、積雪の状況を見ながら早めにハウスサイドの除雪を行うこと。

耐候性ハウスやガラス温室では、2重カーテンや暖房装置の作動確認、燃油残量を確認する。特に低気温日は、雪がハウスの屋根面に氷着し、屋根雪の滑落を悪くするので、2重カーテンを開放して4～5℃に室内を加温する。

ハウスの融雪はハウス側面部に堆積した雪に散水して行うため、ハウスの肩面に融雪パイプ（散水管）を設置する。既に設置してあるハウスは散水ノズルの詰まりを点検する。

暖房装置のないハウスでは内部を密閉し、気密性を高め、地熱により室温を上昇させ、内張りカーテンを開放して屋根雪を滑り落ちやすくする。



<果樹>

(1) せん定

- ・せん定をしていない樹は、枝に雪が付着し、垂れ下がった枝が積雪に引き込まれる危険性が高い。これを回避するため、積雪が始まるまでにせん定を終える。作業が遅れている場合は、全園を回って粗せん定だけでも実施する。

(2) 幼木・成木の管理(ウメ、カキなど)

- ・ウメ、カキなどの幼木は結束して樹冠を縮めるか、枝吊りを実施する。成木は主枝などの大枝に支柱を当てる。

(3) 棚栽培での管理

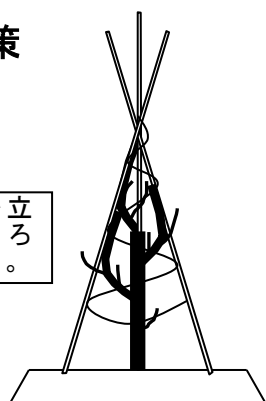
- ・ナシなどの棚栽培では棚を補強する。吊棚は積雪加重が棚に均等にかからず、少ない雪でもバランスを崩して倒壊する危険性があるので冬期間は中支柱を入れる。

(4) 園内の見回り、雪の払い落とし等

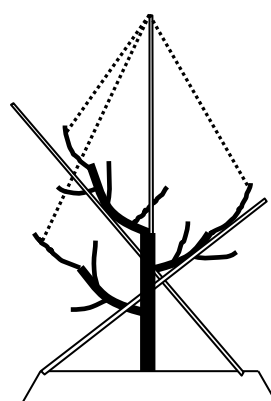
- ・降雪中や降雪後は園内を見回り、枝に付着した雪を払い落とし踏圧する。雪に埋まった樹や枝は放っておくと雪の沈降で裂開するので、速やかに掘り出し、タル木などの支柱をあてて枝を持ち上げる。

幼木の積雪対策

1.5m以上の支柱を立てる。降雪の多いところは支柱の数を多くする。



結束



枝吊り

支柱と支柱は縄で結束する。